

事業報告書 団体名:NPO 法人ファンズアスリートクラブ

| | |
|---|---|
| 事業名 | キャップアートで ABC プロジェクト ～ボトルキャップで ABC プロジェクト内～ |
| 【当初計画の事業目的(取組課題)と実施効果】 | |
| ■事業目的 障がい者、入院中の子ども達や一般市民が、交流しながらボトルキャップでアート作品を作り作品を応募し、キャップアート作品を見てもらいその後ワクチンに変え、世界の子ども達を病気から救う ★SDGsとしても、5つのテーマ達成を目指します。 3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう 17. パートナースhipで目標を達成しよう | |
| ■事業計画 ボトルキャップでアート作品を作り、障がい者や一般市民と多くふれあい、キャップアート作品を見てもらい、その後はワクチンに変え、世界の子ども達を病気から救うプロジェクト。 | |
| ■令和4年 | |
| ●4月～(通年)>>川崎市内各所でボトルキャップの回収開始/回収BOXの交渉や企業提携も通年で行う | |
| ●6月～>>事務局の設置(6月～2月末まで・ファンズスポーツクラブ川崎クラブハウス内) | |
| ●7月>>川崎市立小学校支援級にアスリートと共に外向いてアート作品制作(今年度は2～3校予定) アート作品一般公募開始 | |
| ●8月>>カルッツかわさきにてアスリートと共に制作するイベント開催 アート作品審査・カルッツかわさき プレイルームにて展示会(～9月中旬) | |
| ●9月～10月>>大師公園もしくは Daishi One Park で制作イベント開催 | |
| ■実施効果 | |
| ① ビーチやスポーツ施設・公園などからゴミを無くそう →ウインドサーフィン・ビーチサッカー・BMXなどの大会会場から「ゴミゼロ」 | |
| ② 「アート活動」を通して交流できる子供たちを増やそう →一緒に制作する障害児・入院児目標100名 | |
| ③ 障害は「個性」子供達から一緒にアート作品を作ることで仲間意識を持ってもらおう →普段のイベントや総合型地域スポーツクラブの参加者増加 | |
| ④ 海外の子ども達を救おう →ポリオワクチン 目標1300個・4か国に各275回接種出来る | |

| | |
|---|--|
| 【実施結果(成果)】 | |
| ●アート作品一般公募>>募集期間:7月23日～8月22日 応募総数53点・入賞数26点 | |
| ●アート作品審査・カルッツかわさき プレイルームにて展示会(8月27日～9月11日 観覧者数 約400名) | |
| ●特別支援級にハンドメイド作家(川崎区盛り上げ隊!)を、派遣し児童と共に作品制作 7月13日川崎市立宮前平小学校 参加児童11名 講師:米澤奈緒さん 7月14日川崎市立旭町小学校 参加児童19名 講師:杉崎麗子さん | |
| ●アスリートと共に制作するイベント開催 7月18日 大師 One Park ゲスト甲斐友基・飯田淳史・今泉大地選手 参加者40名 | |

【実際の効果と課題】

■実施効果

●ビーチやスポーツ施設・公園などからゴミを無くそう

目標>>ウインドサーフィン・ビーチサッカー・BMX などの大会会場から「ゴミゼロ」

→ウインドサーフィン・BMX の5つの大会に回収BOX設置。選手の呼びかけで拡大

●「アート活動」を通して交流できる子供たちを増やそう

目標>>一緒に制作する障害児・入院児目標100名

→特別支援級30名+大師OnePark8名+障害者施設(成人)3か所42名計80名

※世代が広がったのは効果があった。川中島小学校など視察もあったので来年度の拡大に期待

●障害は「個性」子供達から一緒にアート作品を作ることで仲間意識を持ってもらおう

目標>>普段のイベントや総合型地域スポーツクラブの参加者増加

→「カルツ SDGs ツリーダイサクセン」というプロジェクトも開始して、参加者が376名

新たなイベントに発展している

●海外の子ども達を救おう

目標>>ポリオワクチン 目標1300個・4か国に各275回接種出来る事

→2023年2月時点で1272個 今年度最終回収で達成できる見込み

■当事業の気付き&課題

※今年度は小学校がコロナ対応の期間中だったので、今まで付き合いの無い小学校にお話ししても実施が難しかった

→次年度は、小学校も課外学習や外部講師を受け入れやすいと聞いているのでこの課外はクリアされると思われる

→今回受け入れてくれた両校とも当法人が体育授業の外部講師として入っている学校なので受け入れが可能だった

→この学校以外にも特別支援級の体育授業を行っているので拡大は可能

※小学校の特別支援級には身体障害・知的障害・精神障害など色々なタイプの障害者がいるので学校側の協力が必須である。

→普段から付き合いのある小学校なので受け入れ態勢が出来ていたのでスムーズに行えたが、交流の無い小学校ならかなりの打合せが必要だと思われる

→公開授業などにして他校の先生に見てもらえる機会をつくとスムーズに行えるかもしれない

→SDGs パートナーの小学校などは興味を持ってきている